

第 14 回 Asia Traveling Fellowship 香港・ベトナム訪問記

14th Asia Traveling Fellowship in Hong Kong and Vietnam

池上章太¹, 三浦紘世²

¹ 信州大学医学部運動機能学教室(整形外科)

² 筑波大学医学医療系整形外科

第 14 回 Asia Traveling Fellowship のプログラムで香港・ベトナム訪問の機会をいただきましたのでご報告させていただきます。

【香港】

2019 年 8 月 25 日～31 日にかけて Department of Orthopaedics & Traumatology, The University of Hong Kong (HKU)を訪問しました。HKU は香港島の西側の高台に位置しており、HKU に附属する約 1400 床の Queen Mary Hospital (QMH)と、QMH から 2km 弱離れた The Duchess of Kent Children's Hospital (DKCH)の 2 つの公立病院を訪問しました。主任教授である Kenneth MC Cheung 先生がホストとして温かく迎え入れてくださいました。また、滞在中は脊椎部門教授である Wong Yat Wa 先生に日々の研修スケジュール調整や送迎などの対応をしていただきました。

QMH や DKCH では EOS に対する Magnetically Controlled Growing Rods(MCGR)術後の最終固定や頸髄症に対する ACDF などの手術に加えて、アジアで初の施行となる脊髄損傷患者への腹腔鏡下横隔膜ペースメーカー挿入術が行われる日に偶然にも研修期間が重なり 2 例見学できました。術前まで人工呼吸器管理されていた症例が術後数日後に病棟回診で呼吸器離脱しているのを目の当たりにして衝撃を受けました。2019 年 9 月から日本でも保険収載されたそうです。

また、Cheung 教授の手術見学のため、香港島の南側に位置する Gleneagles Hong Kong Hospital を訪問しました。Private hospital ということでラグジュアリーホテルのようなロビーの内装に驚きつつ、AIS の後方矯正固定術を見学させていただきました。我々Fellow に解説しながらも、手早く的確な手術手技で良好な矯正を得られていて感銘を受けました。また、術前に固定範囲について Cheung 教授にレクチャーをしていただく機会もあり、とても勉強になりました。その夜には Cheung 教授とご家族とのディナーに招待していただき、会員制レストランの中華料理をご馳走になりました。家族揃って日本の温泉が好きというエピソードに我々の心まで温まり、話が盛り上がりましたが、実際には Cheung 教授の方が我々よりも日本の温泉の知識が豊富で、ここでも多くのことを教えていただきました。

手術見学だけではなく、QMH と DKCH それぞれで Wong 教授の外来見学をさせていただきました。典型的な変性疾患術後症例や原発性脊椎腫瘍の TES 後など幅広く様々な症例の経過を丁寧に解説してくださいました。また、QMH、DKCH それぞれの病棟回診や症例検

討ミーティングにも参加しましたが、Cheung 教授や Wong 教授から治療戦略や合併症の発生要因についてスタッフや若手医師に厳しい質問、意見が飛び、白熱した議論が展開され圧巻でした。いずれもエビデンスを重視して明確な根拠で治療方針が決定されていくプロセスが一貫しており、見習うべきものでした。我々 Fellow にも議論への参加が求められていたため緊張感にあふれた時間を過ごすことができました。世界屈指の大学らしい最先端かつ非常にサイエンティフィックな空気を感じる事が出来ました。

8 月末の香港は報道にもある通りデモ騒動の最中でした。出発 1 週間前はデモ隊が香港空港ターミナル内に座り込みした影響でフライトが欠航となり香港まで辿り着けるのか心配しました。滞在中にも市内の行政機関の前にはバリケードが物々しく築かれ、QMH 敷地内の柱にはデモ隊によって政府を批判したビラが一面に貼られていました。現地の SNS を見て広東語を翻訳してデモ隊と警察の衝突に遭遇しないようにしながら、少し市内中心部の観光もできましたが、その道中の地下鉄駅構内で黒 T シャツを着た一団のデモ隊が大声を出しながら集合場所に移動していたりと動乱の真っ只中にいることを実感しました。幸い Cheung 教授、Wong 教授や医局 secretary が滞在中にかなり気を遣っていただいたおかげで安全に予定通りの日程と内容で充実した研修を過ごすことができました。

【ベトナム】

9 月 21 日～29 日にベトナムを訪問しました。前半は Ho Chi Minh City、後半は Nha Trang にて研修させていただきました。

Ho Chi Minh City は新しくきれいなビルと古い街並み、点在するフランス植民地時代のヨーロッパ風建築が混在した chaotic な大都市で、その中心部に我々が訪問した Trung Vuong Hospital は立地しております。ホストの Vo Van Thanh 先生自ら "Very poor hospital" とおっしゃる病院はコンクリート造りのあっさりした低層建築、その趣は病院というより団地というのが率直な感想。脊椎外科オフィスも簡素で、外来患者さんたちが階段や廊下で自由に寝そべっているのも日本では見られない光景です。しかし我々はこの病院で非常に貴重な経験をし、医師としての在り方の見本たる姿を学ぶことになるのでした。

Thanh 先生は年齢を感じさせない非常にエネルギッシュな先生で、滞在中たくさんのお話を伺うことができました。お話から、先人が築かれてきた脊椎外科の歴史を重んじ、国際的な交流、特に日本の先生方との交流を長年大切にしていらっしゃっていることがよくわかりました。変化していくベトナムにおける医療や医師教育が抱える問題についても憂慮されており、そんな中でも「お金」ではなく「心」を大切にすることの重要性を説かれておりました。手術は側弯の他、結核性脊椎炎の側臥位前後方合併手術をライフワークとされており、特にスクリュー挿入のテクニクは座学、手術参加を交え大変勉強になりました。

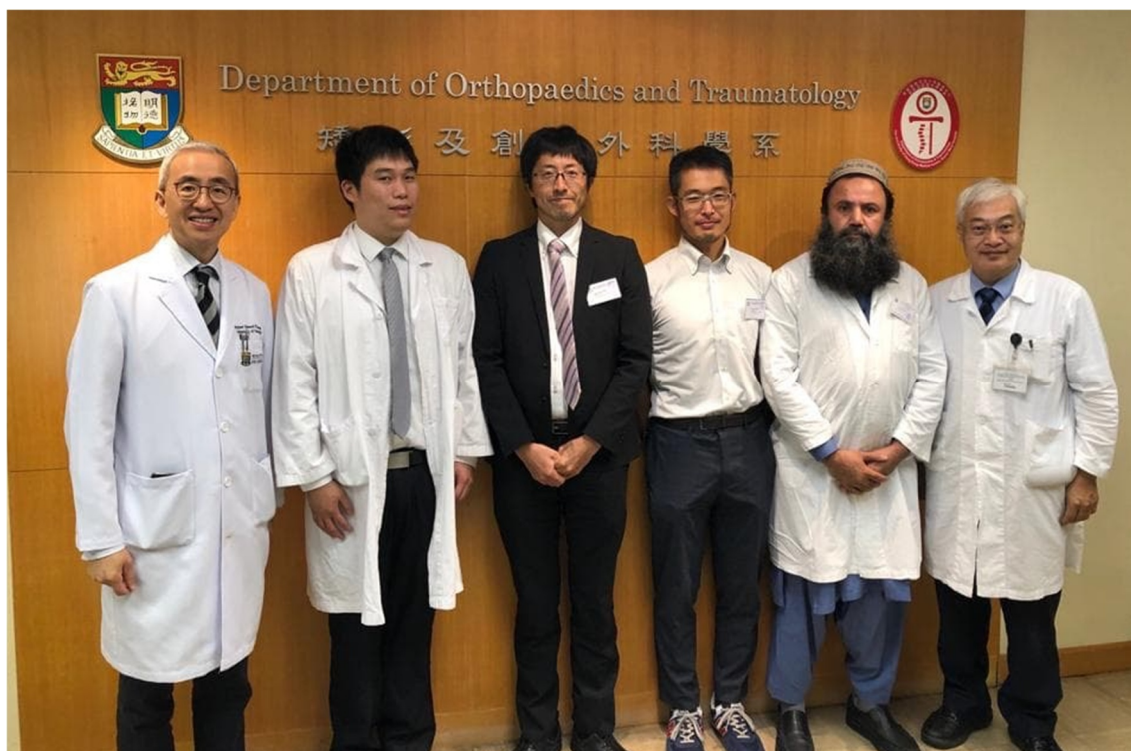
Nha Trang は南シナ海に面したとても美しいビーチリゾート地区、Khanh Hoa General Hospital の脊椎外科部門チーフ Hoang Manh Tran 先生は Thanh 先生の弟子で、40 歳代の気鋭脊椎外科医です。物腰柔らかく話しやすい先生ですが、部下の先生曰く脊椎手術を休

むことなく行い続ける強者だとのこと。こちらでは変性疾患や椎体骨折を中心に数多く脊椎手術に入らせてもらいました。脊椎外科部門は若い脊椎外科医が多く楽しげな雰囲気の中で数多くの手術をこなしていました。

ベトナムは受け入れてくださる先生方のホスピタリティーが素晴らしいです。殆どの時間を一緒に過ごさせていただき、それを忙しい日常診療の合間を縫って連携しながら常に笑顔で行ってくれます。我々の研究発表・討論には他病院の先生まで招いていただき、本当に熱心に話を聞いてくれました。そして、日本の脊椎外科医の先輩方が如何にベトナムのために貢献してきてくれたかを熱く語っていただきました。休日には Thanh 先生の故郷である Tây Ninh への日帰りツアーが盛り込まれており、研修から観光、空港での対応含め日本への出発までのすべてをコーディネートしていただきました。

ベトナムは医療環境的には決して恵まれているとは言えませんが、考え方、手術手技は卓越しており、脊椎外科医の先生方は先進国で学んだ方法論を発展途上国で実現可能な形に落とし込みながら高難度な手術を行っておられました。人徳のある Thanh 先生、Manh 先生の下で若手ドクターは高い向上心を持っており、その姿勢は見習わなければならないと感じました。

このような貴重な機会を与えていただきました日本脊椎脊髄病学会および国際委員会の関係者皆様、また長い研修に快く送り出してくださった同僚の先生方にこの場をお借りして深謝いたします。



HKU 整形外科カンファレンスルームの前にて（左端 Cheung 教授、右端 Wong 教授、左から 3 番目三浦、4 番目池上）



Ho Chi Minh City クルーズ船にて Trung Vuong Hospital 脊椎外科チームのみなさんとのディナー（奥右 Vo Van Thanh 先生、奥左 1 番目三浦、2 番目池上）